

| 法人（事業所）理念 | | えがいて咲かせる、ひとりひとりの「できるよこび」 | |
|-----------------|---|---|---|
| 支援方針 | | ・集団療育プログラムのほかに、個別療育プログラムを用意し、その日の「出来た！」を連絡帳で見える化（感覚統合・SST・知育・運動・ごっこ遊び等多岐にわたります。） ・他者のかかわりを重点に、コミュニケーション能力やルールを吸収する力を充実させます。 ・音楽や体操、児童書などの遊びを通して情操を豊かにします。 ・「サービス」ではなく「ホスピタリティ」でお子様に寄り添います。 | |
| 営業時間 | | 8時 30分から 17時 30分まで | 送迎実施の有無 あり |
| ねらい | | 支援内容 | |
| 健康・生活 | | 具体的な活動や支援内容 | |
| 健康・生活 | (a) 健康状態の維持・改善 (b) 生活のリズムや生活習慣の形成 (c) 基本的な生活スキルの獲得 | (a) 健康状態の把握 健康な心と体を育て自ら健康で安全な生活を作り出すことを支援する。また、健康状態の常なるチェックと必要な対応を行う。その際、意図表示が困難であるお子さまの障害の特性及び発達の特徴等に配慮し、小さなサインから心算の異常に気づけるよう、適切な観察を行う。 (b) 健康の増進 睡眠、食事、排泄等の基本的な生活のリズムを身に付けられるよう支援する。また、健康な生活の基本となる食を営む力の育成に努めるとともに、楽しく食事ができるよう、口腔内機能・感覚等に配慮しながら、咀嚼・嚥下・姿勢保持・自衛具等に関する支援を行う。さらに、病気の予防や安全への配慮を行う。 (c) リハビリテーションの実施 日常生活や社会生活を営めるよう、それぞれのお子さまに適した身体的、精神的、社会的訓練を行う。 (d) 基本的な生活スキルの獲得 身の回りを清潔にし、食事、衣類の着脱、排泄等の生活に必要な基本的技能を獲得できるように支援する。 (e) 構造化等により生活環境を整える 生活の中で、さまざまな遊びを通して学習できるように環境を整える。また、障害の特性に配慮し、時間や空間を本人に分かりやすく構造化する。 | 来所時に体温測定を行い、健康状態を確認します。始末りの会では、健康状態や気持ちの表現を質問し、言葉やイラストを選んで自分の気持ちを表現できるように促します。困り感がある際は、気持ちの絵カードや言葉のモデルを示し、自分で表現できるように支援します。また、日常生活に必要なスキル（食事、排泄、整髪など）の指導を実施し、教室の目標に慣れ、生活リズムを整えるよう配慮します。 【具体的な内容】 ・ランドセルなどの自分の持ち物を所定の場所に入れたり、使用後は元の場所に戻すよう声掛けを行う。 ・安定した生活リズムの定着を図るために、スケジュールに沿った活動や場面の切り替えでの声掛けや誘導を行う。 |
| | (a) 姿勢と運動・動作の向上 (b) 姿勢と運動・動作の補助的手段の活用 (c) 保持する感覚の総合的な活用 | (a) 姿勢と運動・動作の基本的技能の向上 日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や上肢・下肢の運動・動作の改善及び習得、関節の拘縮や変形の予防、筋力の維持・強化を図る。 (b) 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用 姿勢の保持や各機能的運動・動作が困難な場合、姿勢保持装置など、様々な補助用具等の補助的手段を活用してこれらができるよう支援する。 (c) 身体の移動能力の向上 自力での身体移動や歩行、歩行器や車いすによる移動など、日常生活に必要な移動能力の向上のための支援を行う。 (d) 保持する感覚の総合的な活用 保持する視覚、聴覚、触覚等の感覚を十分に活用できるように、遊び等を通して支援する。 (e) 感覚の補助及び代り手段の活用 保持する感覚が活用しにくい状態を把握しやすくするよう眼鏡や補聴器等の各種の補助機器を活用できるように支援する。 (f) 感覚の特性（感覚の過敏や鈍麻）への対応 感覚や認知の特性（感覚の過敏や鈍麻）を踏まえ、感覚の偏りに対する環境調整等の支援を行う。 | 体操などを通して、日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や上肢・下肢の運動能力の向上を目指します。リキットなどの異なる運動や動作を組み合わせた活動を通して、筋力、持久力、柔軟性などの運動能力を高めます。注意して取り組んだり、集中して取り組めるような環境を整え、楽しく取り組めるよう支援を行います。 色や形の異なるブロックや絵などを用いて、視覚的に理解する力の向上を図ります。 様々な楽器や音を使った活動、リズムに合わせて体を動かしたり、音を聞き分けたりする活動を通して、楽しい活動の中で聴くことや聴いて理解する力を促進します。 【具体的な内容】 ・バランスボードやランポンリング、ボルダリングなどを併せてバランス感覚や体感を鍛える。 ・集団療育では動作を遊んだ後運動、サーキット遊びを通して増大運動などを取り組んでいる。 ・感覚に特性のある児童への配慮として、イヤーマフや静電気の除去を行っている。 ・姿勢保持が困難の児童には、座る場所や姿勢を視覚的に理解しやすい方法で伝える。 ・姿勢保持をしやすいように、必要に応じて置き家具を使用する。 |
| | (a) 認知の発達と行動の習得 (b) 空間・時間・数等の概念的な獲得 (c) 対象や外環境の適切な認知と適切な行動の習得 | (a) 感覚や認知の活用 視覚、聴覚、触覚等の感覚を十分活用して、必要な情報を収集して認知機能の発達を促す支援を行う。 (b) 知覚から行動への認知過程の発達 環境から情報を取得し、そこから必要なメッセージを選択し、行動につなげるという一連の認知過程の発達を支援する。 (c) 認知や行動の手段とならる概念的な獲得 物の機能や性質、形、色、音が変化する様子、空間・時間等の概念的な形成を図ることによって、それを認知や行動の手段かとして活用できるように支援する。 (d) 数量、大小、色等の獲得 数量、形の大きさ、黒・白の違い等の習得のための支援を行う。 (e) 認知の偏りへの対応 認知の特性を踏まえ、自分が入ってくる情報を適切に処理できるように支援し、認知の偏り等の個々の特性に配慮する。また、こだわりや偏食等に対する支援を行う。 (f) 行動障害への予防及び対応 感覚や認知の偏り、コミュニケーションの困難性から生ずる行動障害の予防、及び適切な行動への対応の支援を行う。 | 買い物や料理を通じてお金の使い方や計算、時間の管理などを学ぶ機会を提供します。絵本や歌、パズル、時間を計るゲームを使い、楽しみながら空間・時間、数の概念を学び、深めます。お子さまが自ら問題を解決する機会を与え、教材や教具を用いて視覚的に理解しやすい支援を行います。 【具体的な内容】 ・部屋のコントロールができるように順番や交換、「預けて」と言葉で伝えるなどの手立てを練習する。 ・一対一練習をすることで、「預けて」と伝えたら必ず預けてもらえる環境を少くして順番が回ってくる環境の中で練習を行い、言葉で伝えるスキルや相手のタイミングに合わせて、先の見通しを立てて順番を待つなどのスキルの定着を図り、感情のコントロール方法を学んでいく。 ・始末りの会で、日付や時間、数の概念的な習得を図れるような質問を行う。 |
| 本人支援 | 認知・行動 | | |
| 言語 コミュニケーション | (a) 言語の形成と活用 (b) 言語の受容及び表出 (c) コミュニケーションの基礎的能力の向上 (d) コミュニケーション手段の選択と活用 | (a) 言語の形成と活用 具体的な事物や体験と言葉の意味を結びつける等により、体系的な言語の習得、自発的な発声を促す支援を行う。 (b) 受容言語と表出言語の獲得 話し言葉や書く文字、絵字等を用いて、相手の意図を理解したり、自分の考えを伝えたりするなど、言語を受容し、表出する支援を促す。 (c) 人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得 顔や表情などを通して、お互いの相互作用を通して、共同注意の獲得等を含めたコミュニケーション能力の向上のための支援を行う。 (d) 指差し、身振り、サイン等の活用 指差し、身振り、サイン等を用いて、環境の理解と意思の伝達ができるよう支援する。 (e) 読み書き能力の向上のための支援 発達障害のお子さまなど、障害の特性に応じた読み書き能力の向上のための支援を行う。 (f) コミュニケーション機器の活用 各種の文字・記号、絵カード、機器等のコミュニケーション手段を適切に選択、活用し、環境の理解と意思の伝達が円滑にできるよう支援する。 | お子さまの興味や発達段階に合わせて、職員が意図を理解し伝言しながら、遊びややりとりを通じて人への関心を広げます。表情やジェスチャー、視線などを使ったコミュニケーションを支援し、表出にも見たり触れたりしながらことばの理解を深めます。歌やリズム、ゲームを通じて楽しくことばを学べる環境を整え、日常生活や活動で楽しいことばや構文を学ぶ機会をつくります。また、「預けて」「いっしょに遊ぼう」などのやりとりを練習する場を設け、職員が死本を示しながら支援します。 【具体的な内容】 ・個別療育を通して様々な気持ちの理解や自分の気持ちの表出方法を職員と一緒に考える環境を作り、実生活で実践していく。 ・集団療育を通して他者と関わる楽しさを知り、適切な言葉使いや相手に伝わる話し方を習得していく。 |
| | 人間関係 社会性 | (a) 他者との関わり（人間関係）の形成 (b) 自己の理解や行動の調整 (c) 仲間づくりと集団への参加 | (a) アタッチメント（愛着行動）の形成 人との関係を信頼し、身近な人と親密な関係を築き、その信頼関係を基盤として、周囲の人と安定した関係を形成するための支援を行う。 (b) 積極的行動の支援 遊び等を通して人の動きを模倣することにより、社会性や対人関係の芽生えを支援する。 (c) 感覚運動遊びから象徴遊びへの支援 感覚運動遊びから象徴遊びへの移行を促す支援を行う。見立て遊びやつり遊び、ごっこ遊び等の象徴遊びを通して、徐々に社会性の発達を支援する。 (d) 一人遊びから協同遊びへの支援 仲間にとよがしい関係性のある一人遊びの状態から並行遊びを行い、大人が介入して行う連動的な遊び、役割分担したルールを遊ぶ遊戯協同遊びを通して、徐々に社会性の発達を支援する。 (e) 自己の理解とコントロールのための支援 大人を介在して自分のできること、できないことなど、自分の行動の特徴を理解するとともに、気持ちや情動の調整ができるように支援する。 (f) 集団への参加の支援 集団に参加するための手順やルールを理解し、遊びや集団活動に参加できるように支援する。 |
| 家族支援 | 移行支援 | | |
| 地域支援・地域連携 | 職員の質の向上 | | |
| | プロッサムグループ本部にて下記研修実施 ・スタッフ研修 ・専門職員によるスキルアップ研修 ・座席前研修 ・身体拘束適正化研修 ・感染症対策研修 その他 児童発達ミーティングにて他教室との情報・意見交換実施 | | |
| 主な行事等 | ・季節の行事 ・延岡地区や公園への外出活動 | | |